



ポラン通信



～vol.14～

2025年、春の予防シーズンがはじまりました。今年もしっかり予防しましょう。

2025年4月



3月に雪が降ったり、いきなり20度を超える夏日になったりと、気候が目まぐるしいですが、なんやかんやと4月を過ぎれば春。そしてノミマダニやフィラリア症予防の季節ですね。ポラン通信でおさらいして、しっかり予防しましょう。

この時期、どこの動物病院でもあるあるなお得情報(多分)!!!

4月から6月は狂犬病予防注射

わんちゃんのおうちに狂犬病のお葉書が届いていると思います。まだまだ世界的には狂犬病は蔓延しています。しっかり予防しましょう。持病があるわんちゃんのかかりつけ病院で打つかどうか確認し、いつもの病院で打つほうが安心です。集合注射を予定している方は下記にご注意ください!!!

春はやることたくさんあるからね!!

- ・フード値上げ
- ・医療費値上げ
- ・トリミング値上げ

狂犬病予防
ノミ・マダニ予防
フィラリア予防

よくなる予防キャンペーンは

- ・5月から12月分まとめるとバラで買うより1個分くらいお得。
- ・12月など予防忘れを防止。

期間限定まとめ買い

- ・1回の採血でフィラリア検査と健康診断を兼ねる。
- ・犬も負担が少ない。
- ・検査料金が通常より低価格。

血液検査のセットは!

- ・予防接種もパックになっていることも。
- ・当院では同時に歯科検診無料!

健康診断の血液検査の結果を術前検査として歯科治療とセットにすることも。

派手利用ばら!

- ・ 注射のとき犬を制御できる方がいく。
- ・ 大勢の人、犬が苦手な子は動物病院で。
- ・ フレキシブルリード(※)はやめ、手首にまけるリードで。
- ・ 首輪のすっぽぬけ、脱走注意!
- ・ 注射が終わったら速やかに帰宅。
- ・ うんちおしっこは掃除する!
- ・ リュックやキャリーでも、犬に首輪とリードはつけておく。

※伸縮するリード。集合注射では不向き!

←NG!!



そもそもフィラリア症とは？

フィラリア症は犬糸状虫症とも言われ、**蚊が媒介する**寄生虫の病気です。フィラリアに感染した犬を蚊が吸血→蚊の体内にフィラリア幼虫が取り込まれ成長→犬を吸血した時に幼虫が侵入→皮膚、筋肉を脱皮しながら成長→血管にたどり着くと急速に成長しながら**心臓の肺動脈に寄生**→メスのフィラリアがマイクロフィラリアを産む。大量に心臓に寄生すると右心不全、肝臓腎臓にも影響し、死に至る病気です。かつては犬は外飼育され、予防法もなかったもので、蚊に刺される夏を繰り返すたびフィラリアは大量に寄生し、犬の平均寿命は7歳くらいと言われていました・・・。

フィラリア症のお薬とは？

フィラリア症予防薬はズバリ、**虫下し**です。蚊に刺されること、フィラリアに感染することは防ぐことはできません！しかし、月に一度、フィラリア症予防薬(虫下し)を投薬することで、フィラリアの幼虫が成虫になる前に、駆除することができるのです。フィラリア症は、フィラリアの成虫が心臓に寄生することで発症します。その予防とは、『月に一度虫下しすることで、フィラリアの幼虫を駆除すること。』なのです！よく、フィラリアのお薬は「蚊がいなくなってから1ヶ月後まで」と言われますが、蚊に刺されたあと、幼虫を駆除するので、当然ですね。

現在、フィラリアのお薬は様々なタイプがありますので獣医さんとよく相談してくださいね。そして最後12月まで忘れずに。

